

国際作文コンテスト 服部さんが優秀賞



優秀賞に選ばれた自身の作文を手にする服部さん

松本秀峰の14歳

松本市の松本秀峰中等教育学校2年の服部桂さん(14)が、「国際ユース作文コンテスト」の「子どもの部」で次席に当たる優秀賞を受賞した。テーマは「心の中に平和を築く」で、服部さんは弟との口げんかなど身近な事例を踏まえ、小学校6年から通っている茶道教室で講師から教わった「禅語(禅

の教えを表した言葉)を紹介した。「驚いたけれど、茶道の先生や家族に喜んでもらえてよかった」と話している。

コンテストは五井平和財団(東京)の主催で16回目。148カ国から計1万2960点の応募があり、このうち小学生対象の「子どもの部」に4017点、高校生から25

歳までの「若者の部」に8943点が寄せられた。同校は、文章力を付けるなどの狙いで開校から毎年、中学生に当たる1〜3学年がコンテストに応募。服部さんはさまざまな考え方を理解し、感謝の気持ちを忘れないことの大切さなどをつづった。同校からはほかに、3年の川原

航君(15)が佳作、同校は学校特別賞を受賞した。優秀賞は応募6年目で初。学校特別賞は2回目となる。

担当教諭の野口喬さん(38)は「自分の体験を素直に文章にできる生徒が多い」と評価した。表彰式は12月に都内で開かれる。

安曇野市明科七貴の荻原区の住民でつくる「荻原の昔と今を再発見する会」は15日、初めての「荻原検定」を荻原農村都市交流センターで行う。区民に地域のことをよく知ってもらう狙いで、2013年に作った記念誌「荻原の昔と今を再発見」を基にした四者択一式の50問を出題。正解が7割以上で合格とする。

知って楽しむ「荻原検定」 住民の会 あす安曇野で

行した財、白ど地域んだ。さし、14ヤレ、公民館してき題を出同公委員(59)は記念誌多くのしい「から。